

2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R01	2020 R02	2021 R03	2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07
小委員会 第1回	第2～3回	第4回	第5～7回	第8～9回	第10回	第11回	第12回			全体構想20年
活動	【行為目標】		活動は、委員事案、小委員会事案、事務局事案に分けて実施する							
	【観光】		マルチパーパストレイル（亀山委員）							
			熱気球（釧路町）							
			かわたび連携（開発局治水課）							
			インフラ わくわくツアー等							
			自然再生事業箇所の 利活用の推進							
			R1～R2：カヌーガイドラインの更新(R3年度公開) R3：ポケット版の作成 R4：ポスターを用いた広報活動、リーフレットの作成 R5：カヌーガイドラインポケット版の見直し							
	【ルール】									
	【産業連携】		産業利用ガイドブックの検討 ⇒ 活動報告書の作成（R03公開） 農業事業者との連携							
小委員会 での話題 提供	鶴居村服部氏 環境省竹中氏	国立環境 研究所亀山氏 鈴木委員長 代理	銧路公立大 小林氏	国立環境 研究所亀山氏	鶴居佐藤氏	標茶櫻井氏	道東ホース タウンプロ ジエクト 岡本氏	北開水工コ ンサルタン ト石黒氏		

### ■ 地域づくり小委員会の進め方について

- ・ 第4回小委員会（平成29年度）より3つの行為目標「観光」「産業連携」「ルール」に沿って、具体的なプランを実施していくことにした。
- ・ 第8回小委員会（令和元年度）からは様々な意見を具体的に進めるため、活動を「委員事業」「小委員会事業」「事務局事業」の3つの事業に分け、並行させて実施することとした。

### 行為目標（実施すべき内容や手法）

観光などの地域振興  
による湿原の賢明な利用

地元産業との  
連携の検討

湿原の利用に関するガイド  
ライン・ルールづくり

### ■ R05取り組み内容

#### R4～ 小委員会事業

- ・ 自然再生事業が進んでいる事業箇所の「観光」としての活用を推進させる。

#### R5 委員事業

- ・ 国立公園ブランドプロミスについて、かわたび×うまたび、ロングトレイル、釧路川トイレ設置、インフラわくわくツアー

#### R3～ 小委員会事業

- ・ 湿原周辺の土地利用者である農業事業者との連携を深め、湿原の環境保全のさらなる推進を図る。

#### R1～ 小委員会事業

- ・ カーナビガイドラインを更新する。
- ・ 合わせて広報施策を検討する。

## 2. 取り組み状況の報告

---

【委員事案】 各委員の取り組み内容報告

【小委員会事案】 ①農業事業者との連携継続

②自然再生事業箇所の利活用の推進

③カーヌーガイドラインの見直し

## 委員事案

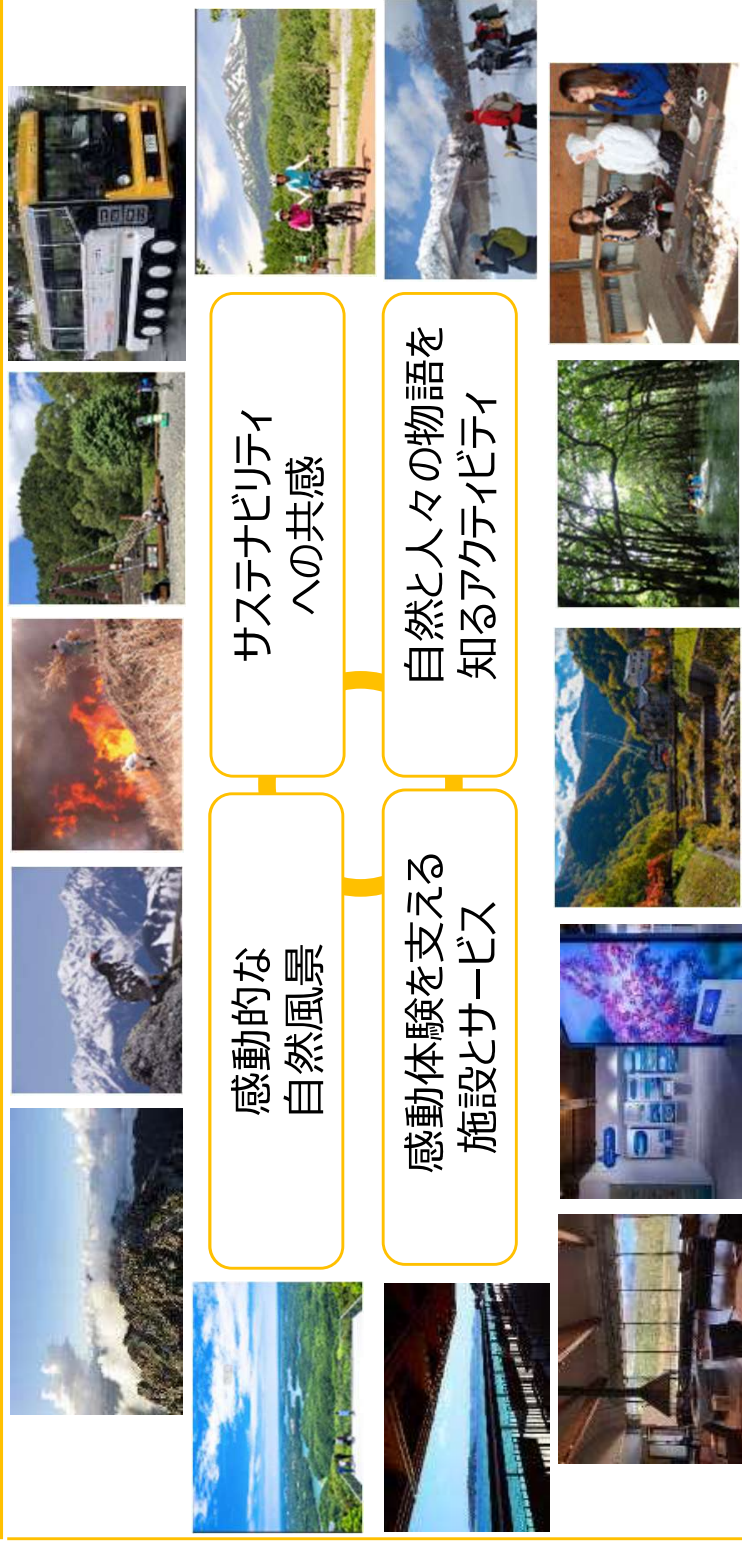
- ・ 令和元年度からの委員事案一覧を以下に示す。

委員事案	実施者	実施年度
国立公園ブランドプロミスについて	環境省	R5
ロングトレイル	環境省	R5
かわたび×うまたび（かわたびほっかいどう）	標茶町、釧路開建、 道東ホースタウンプロジェクト	R3～
釧路川トイレ設置	釧路川カヌーネットワーク、 北開水工コンサルタント	R5
インフラわくわくツアー	釧路開建	R5
シーニックバイウェイと 連携したサイクルツーリズム（かわたびほっかいどう）	釧路湿原・阿寒・摩周シーニック クバイウェイ、釧路開建	R2～
気球係留フライト	釧路町	R2
釧路湿原周遊マルチパーパストレイル	亀山委員	R1～
釧路町が誇る釧路湿原を 満喫できるモニターツアー（かわたびほっかいどう）	釧路町、釧路開建	R1
道の駅を拠点とした 外国人ドライブ観光促進（かわたびほっかいどう）	釧路開建	R1

# 国立公園のブランドプロモミス (2023年6月決定)

- 国立公園のブランディングを強化するためブランドプロモミスを定め、国立公園の管理運営に関わる関係者間の共通理解の下、全ての国立公園において、環境省と地域・関係者が一緒に、ブランドプロモミスの実現に取り組む。

## ブランドプロモミス (国立公園が来訪者・地域に約束すること)



# 国立公園のブランドプロモミスとブランディング活動

## ブランドメッセージ

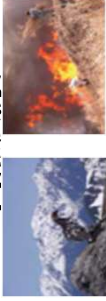
その自然には、物語がある。

## 提供価値

多様な自然風景と、生活・文化・歴史が凝縮された物語を知ること、忘れられない唯一無二の感動や体験ができる。

## ブランドプロミス (国立公園が来訪者・地域に約束すること)

◎ **感動的な自然風景**



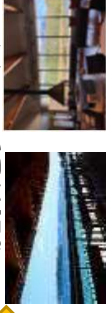
◎ **サステナビリティへの共感**



◎ **自然と人々の物語を知るアクティビティ**



◎ **感動体験を支える施設とサービス**



## ブランディング活動

(ブランドプロミスを実現し続けるため、環境省が地域・関係者と一緒に取り組むこと)

- ① 自然・生活・文化・歴史を把握し、**物語 (ストーリー)** を明らかにし、**保護と利用の方針を定め、行動計画**を作成します。
- ② 地域の**コーデネイター**として、地域の多様な主体と**一体**となって公園管理や魅力の発信に取り組みます。



③ **自然の風景や野生生物、生態系を保護・再生**します。

※ 二次的**自然の維持管理**も含む



④ 利用の**ルール、限定体験、利用者負担等**に取り組み、**公正な利用とその対価が保護に再投資される仕組み**をつくります。

⑤ **脱炭素化や地産地消**などに**取り組み、持続可能な地域づくり**に貢献します。



⑥ **物語 (ストーリー) に沿った魅力的な自然体験コンテンツと体験コース**をつくります。

※ **物語 (ストーリー)**とは、**自然・暮らし・文化**など地域の**資源をつなぎ**、その**風景地の成り立ちや価値**を伝えるもの



⑦ **集団施設地区・温泉街等の利用拠点の魅力向上**を図ります。

⑧ **魅力的な利用施設の整備・管理を進めます。**

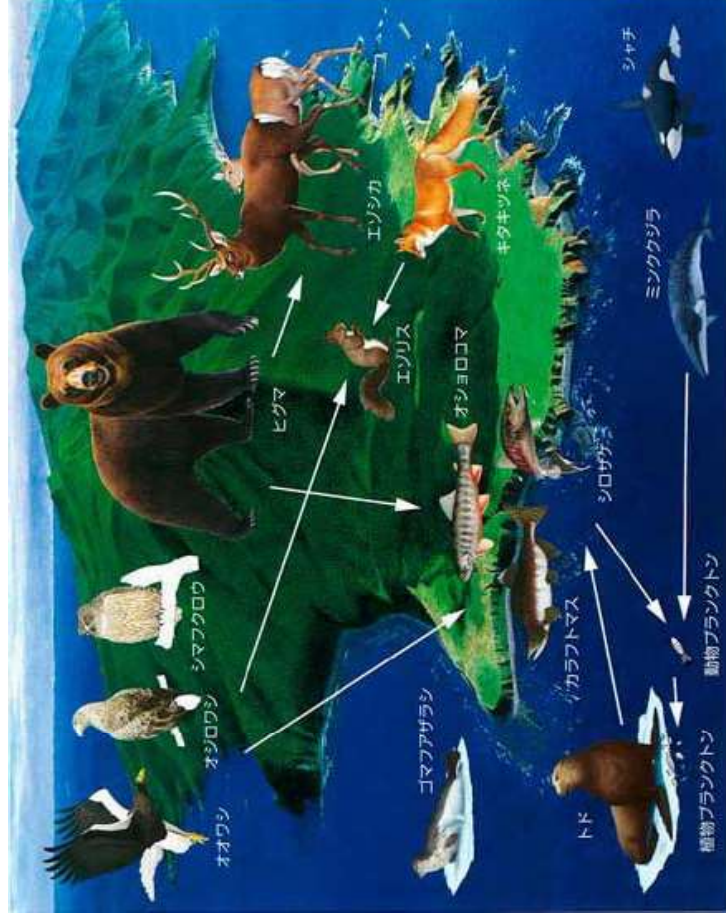
⑨ **統一したメッセージ、デザイン**を活用し、**国立公園に関する情報を広く発信し、理解拡大に努めます**

## 物語（ストーリー）＝風景の成り立ちと価値の言語化

### 世界自然遺産 知床の顕著な普遍的価値

何を大切にし、来訪者に何を伝えるのか？

- ix)生態系：海水の影響を受けた海と陸の生態系の豊かにつながり
- x)生物多様性：動植物ともに北方系と南方系の種が混在することによって、多くの希少種や固有種を含む幅広い生物種が生息・生育するなど、生物の多様性を維持するために重要な地域



## ● 国立公園における自然体験コンテンツガイドライン

[https://www.env.go.jp/nature/mankitsu-project/pdf/experience\\_guideline.pdf](https://www.env.go.jp/nature/mankitsu-project/pdf/experience_guideline.pdf)

「コンテンツ造成」「安全対策・危機管理」「環境への貢献・持続可能性」の3つの観点から、事業者自らがその責を確認することができるガイドラインを作成（R5年3月）

- 国立公園の自然環境・文化・人々の営みなどの魅力をストーリーとしてコンテンツに活用
- ガイディングなどコンテンツ内容・提供方法の磨き上げ
- 安心・安全なコンテンツの提供
- 自然環境と地域社会・経済への貢献
- ☞ コンテンツの高付加価値化による単価の向上
- ☞ 顧客の満足度向上・リピート化
- ☞ コンテンツの価値と事業の持続可能性の向上

自然環境保全と持続的利用の好循環

## ● コンテンツガイドラインに沿ったコンテンツの造成

【中部山岳】高山帯の希少種であるライチヨウの観察ルールハンドブックを作成。地元の山岳ガイドがハンドブックを活用してツアーを造成。保護と利用の好循環の仕組みづくりを行政、専門家、観光事業者が連携。



## ● 国内向け「国立公園に、行ってみよう！」サイト



- コンテンツガイドラインに沿ったコンテンツを掲載  
→ やりたいことから探せる
- 各公園のストーリーを軸にしたモデルコース
- 長距離自然歩道

## ● JNTOサイト内国立公園一括情報サイト

- レンジャーインタビュー動画
- 高付加価値な自然体験コンテンツ
- 各公園のストーリーを軸にしたモデルコース
- 360°動画コンテンツ





## (1) 名称 北海道東トレイル「Hokkaido East Trail (HET)」

1. 知床（羅臼）から釧路まで、知床、阿寒摩周、釧路湿原の3つの国立公園とまちを結び、総距離約400kmの長く一本に繋がった**歩く旅の道**。（阿寒～摩周を結ぶ**自転車推奨区間を含む**）
2. 3つの国立公園の自然や魅力、人々の暮らしや文化・歴史を感じながら、**数日間かけて歩いて旅することが出来る**。

※ロングトレイルの取り組みは2022年8月からスタート



## (2) ロゴマーク（案）

## (3) 主な特徴

◆北海道から遠く離れたカムチャツカ半島から千島火山帯に続く、知床、屈斜路、阿寒に連なる火山地帯を横断しながら歩く。

- ① **世界自然遺産知床の「海」**
- ② **斜里岳の裾野に広がる広大な「烟作」**
- ③ **日本最大の屈斜路「カルデラ」**
- ④ **釧路川流域の山肌に永遠と続く「酪農」**
- ⑤ **日本最大の釧路「湿原」**

「**5つの特色あるエリア**」と「**3つの海**」にまたがる、総距離400kmの壮大な道。

◆長く1本に繋がった道は人々を魅了し、歩くことを目的に人々が訪れる。

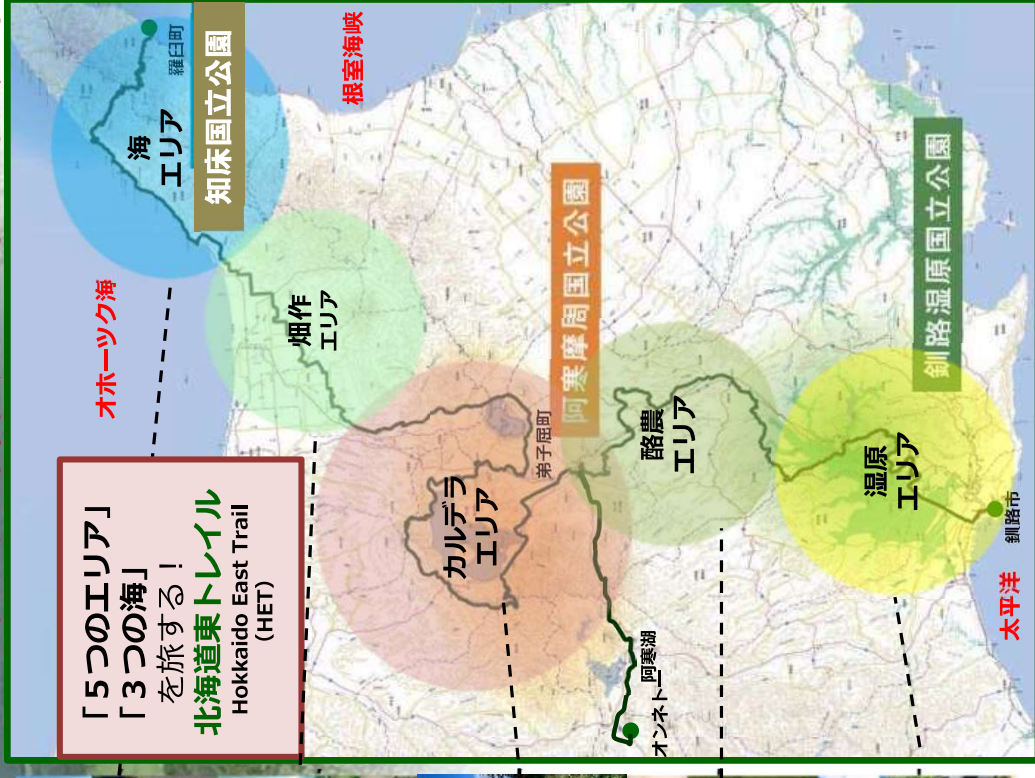
## (4) 広域連携

国：環境省、国土交通省（北海道開発局・北海道運輸局）  
林野庁（根釧西部森林管理署・根釧東部森林管理署・網走南部森林管理署）  
道：北海道  
関係自治体：14市町村  
釧路市、弟子屈町、標茶町、中標津町、清里町、小清水町、大空町、美幌町、津別町、足寄町、羅臼町、斜里町、釧路町、鶴居村



「5つのエリア」  
「3つの海」  
を旅する！

北海道東トレイル  
Hokkaido East Trail  
(HET)





参考: <https://www.env.go.jp/park/shiretoko/point/index.html>

阿寒摩周国立公園

日本最大のカルデラ地形、火山、森・湖が織りなす広大な景観

北海道東部に位置する阿寒摩周国立公園の景観は、千島火山帯の活動によってできてきた阿寒・屈斜路・摩周の3つのカルデラ地形です。北海道で最も歴史のある国立公園の一つで、公園区域の大部分が亜寒帯性の針葉樹林を中心とする天然林に被われ、国立公園の中でも原始的な姿を有しているといわれています。



参考: <https://www.env.go.jp/park/akan/point/index.html>

流水がつなぐ豊かな生態系、火山が生んだ山々と海岸断崖が織りなす雄大な景観

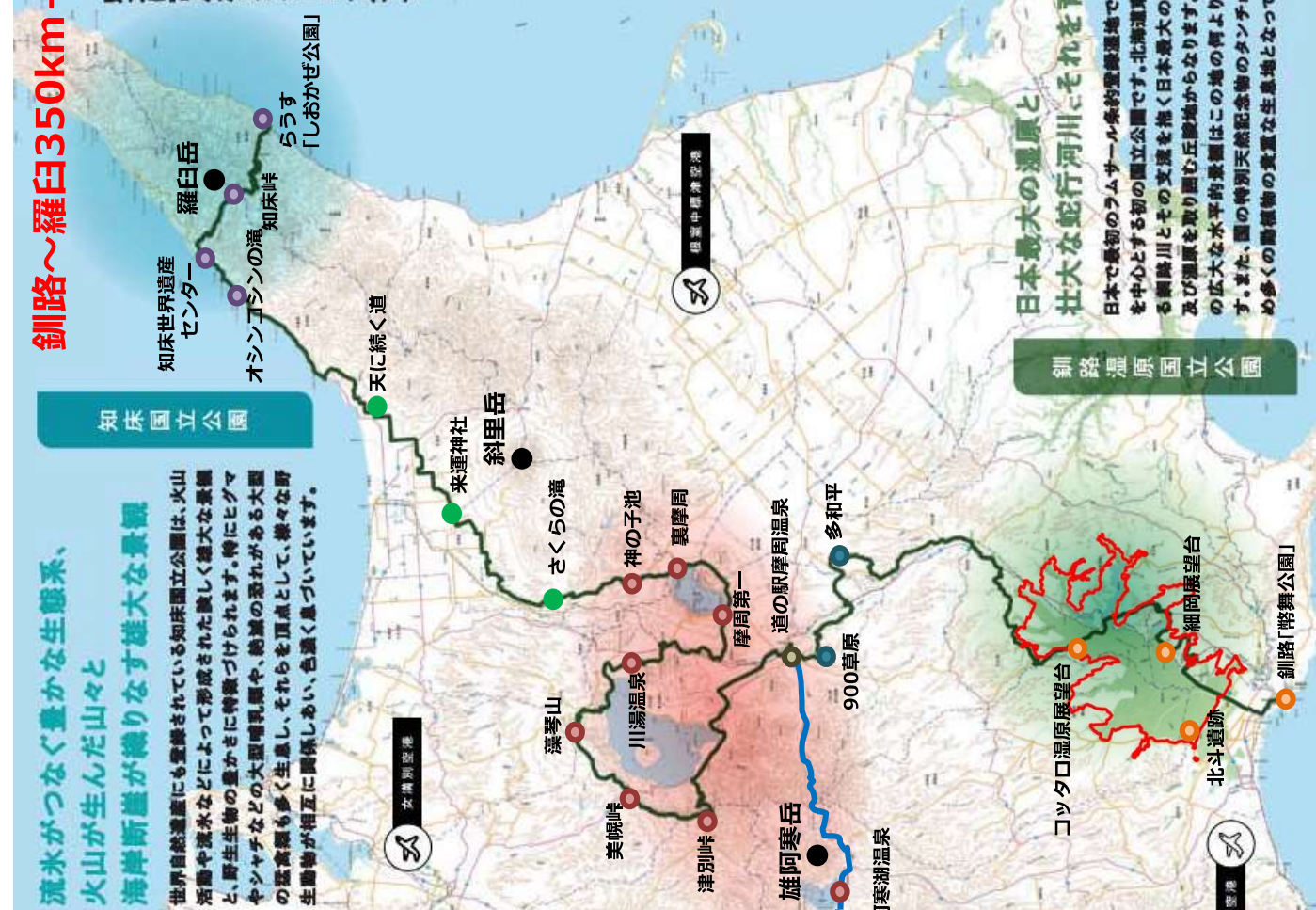
世界自然遺産にも登録されている知床国立公園は、火山活動や凍水などによって形成された美しく雄大な景観と、野生生物の豊かさによって特徴づけられます。特にヒグマやシヤチホコなどの大型哺乳類や、絶滅の恐れがある大型の猛禽類も多く生息し、それらを頂点として、様々な野生動物が相互に関係しあい、色濃く息づいています。

知床国立公園

釧路～羅臼350km + 阿寒・オンネト～58km

ひがし北海道を歩く旅の道とは

ひがし北海道に計画中の歩く旅の道(トレイル)は、日本を代表する3つの国立公園をつなぎます。どこまでも広大な湿原、酪農地帯や畑作地帯。国内有数のカルデラ湖。地球の鼓動を感じる火山。多くの特徴的な山々や豊かな海など、多様な景観を楽しめます。縄文時代から北海道開拓へと続く人々の暮らしや歴史・文化があり、そこに住まう動物や人々の営みとの出会いがあります。太平洋、オホーツク海、根室海峡という三つの海を繋いで、中央に連なる火山帯を越え、特色の異なるエリアをひとつずつ数日間かけて歩きます。ひがし北海道の大きさを体感できる、全長350kmを越える、長く歩く旅ができる魅力に富んだロングトレイルです。



日本最大の湿原と 壮大な蛇行河川にそれを育む森

日本で最初のラムサール条約登録湿原地であり、湿原を中心とする初の国立公園です。北海道東部を流れる網走川とその支流を抱く日本最大の網走湿原及び湿原を取り囲む丘陵区からなります。手つかずの広大な水平的景観はこの地の何よりの魅力です。また、国の特別天然記念物のタンチョウをはじめ多くの動植物の貴重な生息地となっています。

釧路湿原国立公園



参考: <https://www.env.go.jp/park/kushiro/point/index.html>